

## 世田谷区における大学と地域との連携の実態と可能性 —世田谷プラットフォーム協定大学を事例として—

正会員 ○佐々木 隆人\*  
正会員 上山 肇\*\*

地域社会 大学 連携  
社会貢献 世田谷区

### 1. はじめに

2006年、教育基本法の改正において「大学は学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」として大学の社会貢献が教育、研究に続く第三の使命として位置づけられた。

国は2006年に大学と地域の連携協働による都市再生の推進に関する関係府省連絡会議において、都市再生プロジェクト「大学と地域の連携協働による都市再生の推進」を発足した。

これらの法律改正と国の取り組みが開始される以前の2001年には、世田谷区に拠点を置く国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、成城大学、東京農業大学、東京都市大学で世田谷6大学コンソーシアム相互協力協定を締結した。

世田谷6大学コンソーシアムは、世田谷区に集積して所在する利点を活かし、教育・研究の交流による相互啓発と地域社会へ貢献することを目指し2003年に図書館の相互利用、2015年から大学間で教員を派遣して授業を担当する連携授業事業を実施している。

### 2. 調査方法と研究の目的

世田谷プラットフォーム6大学の直近の認証評価結果から社会連携・地域貢献の実態を調査する。

協定自治体である世田谷区の政策経営部政策研究・調査課にヒアリングを実施し、「世田谷プラットフォーム」の現状について調査し今後の可能性を探る。

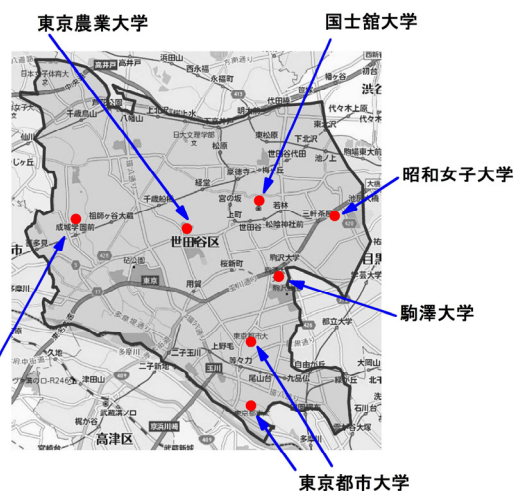


図1 世田谷区内6大学の位置

### 3. 世田谷プラットフォーム協定大学の概要

世田谷区と世田谷6大学コンソーシアム協定大学間で2017年10月に世田谷プラットフォーム協定が締結された。

世田谷プラットフォーム大学情報サイトには「世田谷プラットフォーム」の概要として、4つのビジョンが示されている。

- (1) 【文化・芸術】世田谷の歴史・文化・芸術への理解・関心を高め、学びの場である地域の好感度醸成を図り、世田谷ブランドの向上を目指す
- (2) 【地域活性】地域課題の解決や地域振興に向けた支援体制を構築し、「安心安全に暮らし、学び、遊べる街“世田谷”」の実現を目指す
- (3) 【産業】産学官の連携体制を構築し、新たな商品開発や区内における就労及び起業の促進をはかり、区内産業の活性化を目指す
- (4) 【国際化】東京オリンピック・パラリンピックとその後にむけた区内での国際化対応の向上による世田谷の魅力度上昇を目指す

これらの取り組みは、世田谷区のブランド力の向上や地域の課題解決、区内産業の活性化、世田谷区の魅力の向上を目的とし、産学官協働によるまちづくりの可能性を示したと言える。

### 4. 世田谷プラットフォーム協定大学の地域活動と地域貢献

世田谷プラットフォーム大学の直近の認証評価結果のうち「社会連携・社会貢献」として以下の評価を受けている。

- (1) 国士舘大学  
国士舘大学地域交流文化センターの開設、生涯学習センターによる公開講座、食堂・図書館といった大学施設の開放によって地域との結びつきを強めるよう努めてもいる。
- (2) 駒澤大学  
生涯学習を通じた社会貢献については、「駒澤大学公開講座」と「駒澤大学日曜講座」の実施、大学施設の開放による文化向上・地域交流の推進、スポーツの振興を通じた地域社会への貢献、地域環境美化を推進するための社会連携・協力の実施が行われている。
- (3) 昭和女子大学  
「世田谷6大学コンソーシアム」でも、合同公開講座を開催するなど、地域住民に向けた活動を行っている。  
施設開放については、創立者記念講堂を講義や大学の行事などの学内使用時以外には、外部に貸し出しを行い、光

葉博物館も一般市民に公開されているなど、大学周辺と共存・共栄する体制がとられている。

(4) 成城大学

社会貢献活動としては、生涯学習支援事業である「成城学びの森」があり、大学教員などが講師を担当する「コミュニティ・カレッジ」、著名人などを講師として招いて開催する「オープンカレッジ」を2つの柱としている。

地元の世田谷区との連携事業は、区立小・中学校の教育支援や大学の施設利用に関する世田谷区教育委員会との連携、区立小・中学校の教員のキャリア教育研修の実施に関する世田谷区とのキャリア教育連携などがある。

(5) 東京農業大学

教育・研究の成果をもとにした社会へのサービス活動については、市民に対するオープンカレッジや公開講座などを多数開催し、大学の研究成果を市民に公開、提供して、知識や技術の普及、生涯学習等に貢献している。

(6) 東京都市大学

世田谷区と連携した「等々力渓谷清流化プロジェクト」の推進、キャンパスが立地する世田谷区、都筑区などと連携した小学生対象の「理科体験教室」の開催など、地方公共団体との連携事業にも積極的に取り組んでいる。

さらに、教育研究の資源またその成果を社会に還元する拠点として「二子玉川夢キャンパス」も開設している。

世田谷プラットホーム6大学の共通の社会貢献として、教育研究で得た成果を中心として構成されたオープンカレッジや公開講座を一般に公開していること。図書館を含む複数の施設を市民に開放していることがあげられる。

また、国土館大学ではキャンパス内に設置された「メイプルセンチュリーホール」にてスポーツ公開講座を開催している。

昭和女子大学では、人見記念講堂にて音楽演奏会等を実施し一般公開している。

5. 世田谷区と大学の連携

世田谷政策経営部政策研究・調査課のヒアリング調査（2018年3月28日）によると、2014年4月に作成した「世田谷区基本計画」の6つの重点項目のうちの一つとして、世田谷区の文化の創造と知のネットワークが示され、具体的施策として区内大学とのネットワーク、大学や民間の博物館、図書館のネットワークづくりを開始した。

活動としては、世田谷区が中心となって区長と区内の学長が年に1回程度懇談会を行い、世田谷政策経営部政策研究・調査課と各大学の担当所管の事務局が年5回程度調整連絡会を実施している。

懇談会と調整会議を経て、2017年10月20日に各協定大学及び世田谷区が包括的な連携のもと、世田谷区における高等教育の活性化及び地域社会の持続的な発展に資することを目的に

「世田谷プラットホーム」協定を締結した。

世田谷区と個々の大学の個別の取り組みは2017年以前も実施されていたが、世田谷区と大学がネットワークを組み、地域全体でまちの活性化や課題解決、まちづくりに取り組むことは大きな意味があると世田谷政策経営部政策研究・調査課は考えている。

また、区長と学長の懇談会、調整連絡会を今後も継続し、民間企業や団体を含めてネットワーク形成に臨むとした。

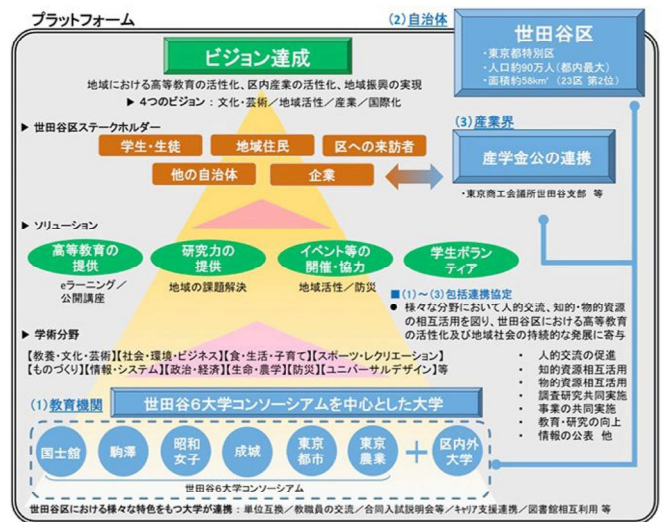


図2 「世田谷プラットホーム」概要

6. 世田谷プラットホームの今後の可能性

世田谷区と大学のネットワークとしての協働は、世田谷6大学コンソーシアムを中心に部分的に実施されてきたが、今後は、世田谷プラットホームを基盤として、包括的な連携による協働が期待される。

各大学で実施実績のあるオープンカレッジや公開講座を世田谷プラットホーム6大学の合同主催として実施することで、参加者(特に地域住民)の利便性の向上を図ることもできるだろう。また、図書館のみならず体育施設や食堂等の施設を地域住民に開放することで地域との連携を強化することもできる。

こうした世田谷プラットホームにおける取り組みは、大規模災害発生時の拠点施設運営を含む、地域のコミュニティ形成を図る上でも有効であるものとする。

【参考・引用文献】

- 1) 世田谷区「せたがや iMap」の地図情報 2018年3月
- 2) 内閣府地方再生推進事務局「大学と地域の連携協働による都市再生の推進に関する関係府省連絡会議」2006年3月
- 3) 世田谷プラットホーム協定大学情報サイト 2018年3月  
http://setagaya-univ.jp/index.html
- 4) 認証評価機関連絡協議会「評価結果一覧」2017年5月  
https://jncaea.jp/

\* Graduate Student, Hosei Graduate School of Regional Policy Design. MA in Higher Education Administration.

\*\* Hosei Graduate School of Regional Policy Design, Prof., Dr. Eng., Ph.D.

\* 法政大学大学院 政策創造研究科 大学院生 修士(大学アドミニストレーション)

\*\*法政大学大学院 政策創造研究科 教授 博士(工学),博士(政策学)